

1. G7 の議論はコロナ後の国際関係を色濃く映し出す

コロナ後の世界経済回復、気候変動、中国（香港、新疆ウイグル）・ロシア・ベラルーシ、ミャンマーなどでの人権を無視した強権的措置への懸念

2. 米中対立は第二の冷戦ではないが、今後 30 年の国際関係の軸

冷戦の二つの特徴を有しない（核の均衡による戦争抑止、政治経済的相互排除）
戦争は起こりうるし（台湾海峡軍事衝突のシナリオ）、経済的相互依存関係は濃密

3. 米中対立の基本は競争と協力

①レッドラインを超えない（台湾・人権・東・南シナ海）、②相互依存関係を維持、③経済的競争（経済安保と知的所有権）、④戦略的協力

4. 戦略的協力の分野

①気候変動、②コロナ対応、③北朝鮮非核化、④イラン核問題、⑤ミャンマー

5. ブロック対立を避ける

- ・強権的政権 vs 民主主義先進国、上海機構 vs Quad
- ・「インド太平洋戦略」と「アジア太平洋協力」の役割

6. ポストコロナ時代における G7 の役割

- ・トランプとバイデン（アメリカ・ファーストから国際協調へ）
- ・強権的政権と対峙する先進民主主義国の結束なのか？
- ・新しい協力的国際関係への道を模索すべきでは？